



砺波総合病院から

病院のホームページもご覧ください。

市立砺波総合病院 ☎32-3320

富山県ドクターヘリ

運航開始から4年を経過して

集中治療・災害医療部

部長

廣田幸次郎

医員

谷 昌純

医員

中垣成子

平成27年8月に富山県立中央病院を基地病院として富山県ドクターヘリが運航を開始され4年が経過しました。昨年度は実際にはキャンセルとなったケースも含め、1年間に792件の出動があります。そのうち約200件が砺波医療圏（砺波市・南砺市・小矢部市）に出動しています。医療圏の中核施設である当院はドクターヘリで搬送された傷病者の大半を受け入れています。

ドクターヘリの出動基準

ドクターヘリの一番の威力は、医療チームを現場に搬送し、いち早く治療を開始できることです。119番通報の内容に重症であることや緊急を要する傷病が予想される症状のキーワードが含まれると消防指令センターから即座にドクターヘリに出動要請がかかります（キーワード方式）。従って、個人が直接出動要請をすることはできません。富山県は県立中央病院を中心として、ほぼ全域が

半径50km（飛行時間約10分）内に収まるため、要請から5分以内に基地病院を離陸し、県内全域に設定されたランデブーポイント（救急隊との合流地点）には15分以内に到着することが可能です。これは、全国トップレベルの早さです。なお、日本においてはドクターヘリの夜間での運航は行われていません。

ドクターヘリのスタッフ

富山県ドクターヘリは操縦士1名、整備士1名、看護師1名と医師2名が搭乗しています。そのため、多数傷病者事案や出動中に別件の要請が重複した場合にも対応できることが特徴です。搭乗する医師は県立中央病院の救急医の他に、当院を含めた県内の救急医療に従事する救急専門医およびそれを目指す救急科専攻医とされており、このことから受け入れ病院との連携が強化され、運航が非常に円滑に進めることができます。

住民の皆さまへのお願い

いち早く傷病者と接触するためランデブーポイントは県内各地に計539か所設定されており、砺波市内にも41か所あります。学校のグラウンドなどの砂地に着陸する場合は、事前に消防機関が散水して砂塵が舞い上がるのを防止します。もしお近くにドクターヘリがやってきた際には、離着陸時の吹き下しの風（ダウンウオッシュ）により飛散物が発生して危険ですので、どうぞ近寄らずに屋内の場合は窓を閉めてください。

また、当院周辺にお住まいの皆様には、ヘリコプターの騒音でご迷惑をおかけしますが、ご理解をお願いいたします。

最後に

あつて欲しくないことですが、ドクターヘリの威力が最も発揮されるのは、災害や大きな事故が発生し、多数の傷病者が発生するような場合です。平成19年の中越沖地震以降、地震・災害や大きな事故には、県外からも複数のドクターヘリが被災地内に集合し、現場での医療や搬送などの医療活動を行うようになってきました。ドクターヘリの先進国であるドイツでは、平成10年に乗客300名を乗せた高速列車が脱線し、96名が即死、70名が重症という大きな事故が発生しました。その際には、事故発生後2時間以内に国内から39

機のドクターヘリが現場に集まり、22の病院に分散搬送した結果、救命可能な傷病者を全員救命したと言われています。

日本におけるドクターヘリ体制もドイツに負けないレベルに近づいています。富山県ドクターヘリは、砺波を、富山を、そして日本を守っています。どうかこれからも応援、よろしく願います。

